

第4章 安全で快適な生活環境の実現

第1節 オゾン層の保護対策の推進

現況

オゾン層は、1980年頃から徐々に減少し始め、1996年から2005年の全地球平均オゾン全量は1980年以前と比較すると4.0%減少しています。

1982年に発見された南極上空のオゾン全量が極端に減っている現象「オゾンホール」は世界に衝撃を与えましたが、その面積は1990年頃にかけて急激に大きくなり、その後も徐々に拡大しています。2005年の南極域上空のオゾンホールは、面積、欠損量ともに過去10年間の中では平均的な値でしたが、依然として深刻な状況にあります。

日本でも、気象庁により札幌、つくば、那覇及び南鳥島の4地点でオゾン全量の観測が行われており、1980年代を中心にオゾン全量が減少しましたが、1990年代以降はほとんど変化がないか、緩やかな増加傾向がみられます。

オゾン層の破壊により、地上の有害紫外線（UV-B）の量が増加しますが、これにより生態系への影響のほか、皮膚ガンや白内障、免疫機能の低下等、人への健康被害が懸念されています。また、オゾン層破壊物質の多くは強力な温室効果ガスでもあり、地球温暖化への影響も考えられます。

課題

オゾン層破壊の原因物質であるフロン類の生産・使用規制に並行し、既に市場に出回っている製品からのフロン類の回収・破壊の徹底、ノンフロン製品の普及など、さまざまな側面からの行政、民間一体となった取組が求められています。

また、オゾン層破壊や地球温暖化、有害紫外線の影響についての普及啓発も必要です。

取組

冷蔵庫やエアコンなどの廃家電やカーエアコン、業務用冷蔵空調機器等からのフロン回収を徹底させるため、家電リサイクル法やフロン回収破壊法が施行されています。

本県では、これらの法律に基づくフロン類の回収・破壊を促進するために、オゾン層保護やフロン回収等に関する広報・啓発活動を行っています。フロン回収破壊法に基づく平成23年度における県内のフロン回収量は、第一種フロン類（業務用冷蔵空調機器等）が49.1ト、第二種フロン類（カーエアコン）が0.006トでした。